

令和7年度 草津市健康づくり推進協議会

開催日時	令和7年9月24日(水)13時30分から15時15分	
開催場所	草津市役所 8階 大会議室	
委 員	出席	17名 新木会長、藤井委員、田付委員、大塚委員、保坂委員、家光委員、杉田委員、伊庭委員、山本委員、中西委員、馬場委員、西川委員、田中委員、布施委員、阿部委員、望月委員、松村委員
	欠席	3名 近藤委員、大脇委員、深見委員
傍聴者	なし	

1. あいさつ

【板垣健康福祉部理事 あいさつ】

【草津市健康づくり推進協議会設置条例第3条ならびに第4条および、草津市健康づくり推進協議会設置条例施行規則第4条に基づき、委員の半数以上の出席という要件を満たしており、本協議会が成立していることを報告】

2. 会 長、副会 長の選出

【会 長に新木委員、副会長に近藤委員を選出】

3. 草津市健康づくり推進協議会の位置づけについて

事務局(健康増進課):資料1に基づき説明

4. 議題

(1)第3次健康くさつ21

1)令和6年度取組の実績について(報告)

事務局(健康増進課):資料2-1 および資料2-2に基づき報告

会 長:中間結果なので、数値的に動いていくだろうと思う。

次の問題にも関わるが、個人的には、資料2-2の施策3の「社会との繋がり」の中で、「社会活動を行っている者、町内会の活動に参加している割合」が計画策定時45.5%から、現状値42.9%と減少している点、また、施策4の「まちなかに魅力があると思う」割合が41.7%と、まちなかに魅力あると思っている人が半分もないという結果が気になった。

何かご意見、ご質問はよろしいか。

委 員:(意見、質問なし)

2)「文化」を取り入れた健康への取組について(協議)

事務局(健康増進課):資料3に基づき説明

会 長:意見いただきたいこととして、「皆さんが実践されている取組で、健康と文化が合わさった取組があるか」ということだが、いかがか。

文化というのは、つかみどころがないものかと思う。今取り組まれているもので、ビワテクというアプリがあるが、これは県全体で実施しているものか。草津市では、どれぐらいの方がこのアプリを活用されているのか。

事務局:指標の一つとして、アプリのダウンロード数を市で集計している。令和5年度が4,690人、令和6年度は5,087人となっており、少しずつだが、毎年ユーザー数が増えている。

委 員:ビワテクは何年前から実施されているのか。

事務局:ビワテクは、元々東近江市と本市で、平成28年度よりアプリの共同開発を検討し、稼働を開始したのが平成30年1月10日からとなっている。

委 員:私も初期から登録している。最初の頃は何口か応募したら景品が当たったが、登録者数や利用者が増えたからか、嬉しい悲鳴だと思うが、その後は全く当たらなくなった。景品に加えて、こどもが小さかったので、イベントに参加しビワテクのポイントを貯めたり、イベントを主催することがあったので、ビワテク対象のイベントにしてもらってイベントの啓発をさせてもらったりしたのだが、生活が忙しくなってくると、なかなか取り組む機会がなくなった。シニアの方などで、「時間が空いたらまたやろうかな」とか、また「アプリが面倒くさい」というようなこともあるかと思う。今も対応されているかどうかかわからないが、以前は「紙もある」と案内されていた。色々な世代が取り組みやすいよう、もうひと工夫必要だと思った。これを機会に、改めて登録してみようと思う。

会 長:取組としては良いが、どれだけ浸透しているのかというところだと思う。色々な場で紹介はされていると思うが、例えば学校や職場などでも紹介されているのか。

事務局:ビワテクについては、委員の皆様の中でも御存知ない方もいらっしゃるかもしれないので、説明をさせていただくと、先ほど説明させていただいたように、平成30年から、このアプリを活用して市民の健康づくりを推進している。1年間、1月から12月までの間に健康づくりに取り組んだものがポイントとして付与される。委員からもお話があったように、1,000ポイント貯めると一口として応募でき、協賛事業者から提供いただいた協賛品が景品として抽選で当たる。様々な機会を通じて啓発をしており、県内で一部参加されていない町もあるが、滋賀県の各市町や保険組合等の保険者が共同でこの事業を実施している。草津市でも例えば健康づくりのイベントや、健幸都市賛同事業所というものがあり、そういったところに啓発を行っているほか、他市町等が色々なところでの啓発をされている。

会 長：県内市町等の保険者が一体となって、保険者等がある程度主体の事業になっているということかと思うが、そうするとその保険者の方から、健康保険に入っている団体の人たちに対して、積極的にPRされているのか。

事務局：それぞれの構成団体がどういったところで啓発をしているのかを集計していないが、滋賀県が啓発の予算を持っていることから、滋賀県全域の中で啓発を進めていただいている。

会 長：滋賀県の全自治体が参加しているというわけではないのか。

事務局：滋賀県では2町だけ入っていないが、それ以外の全自治体が参加しており、また、国保や広域連合等にも加入いただいている。それぞれの市町が独立して実施するのではなく、構成団体で「BIWAKOスキやねん協議会」という協議会を立ち上げ、草津市もそれに加入するという形になっている。啓発等も含め、この協議会を通じて、一緒に、それぞれの地域で実施している。

会 長：草津市が主体でやっているものではなく、もう少し大きな範囲で実施されていると理解した。今回の議題に戻るが、「草津市で何かできないか」というのは、いかがか。少し難しい質問だが、そもそも草津の代表的な文化というのはあるか。古典的な文化では、有形文化と無形文化があると思うが、代表的にどういうものがあるのかというところから考えてもいいかと思うが、その辺はどうか。

委 員：文化的なものでいくと、サンヤレ踊りなど、祭り文化がある。有形文化財に登録されているが、祭り等の行事に幼い子ども等の参加が少ない町内が増えてきている。昔は男性のみの参加としていたが、今は女性も参加できるようにしてサンヤレ踊りを実施している。10月に万博で披露したが、神輿は担ぎ手がなく、車に積みながら移動するという状態だったので、お祭りの雰囲気が若干薄らいでいる。サンヤレ踊りは、3月頃から5月頃まで夜に練習して祭り自体は実施されているが、地域の中でもなかなか昔ほどの関係がなくなってきており、そういう部分をどうしたらいいのかというところが、少し難しいと思う。地域としての祭りという部分で文化的なところを考えると、神輿等のいろんな部分で、もっと活発に、若い世代がどういうふうにしたら参加してもらえるかという部分が、難しい課題だと思っている。

会 長：どこの地域も抱えている問題かと思うが、徐々に参加される方が少なくなっているというのが、少し寂しい感じである。地域活動への参加が少なくなっているということも、「まちなかの魅力」に繋がっているのではないか。

「文化」と「健康」となると、草津であれば旧街道。中山道や東海道等を利用してモデルコースを作ってしまうということも考えられると思う。ただ、どんな方がそういった事業に参加してくれるかは疑問。中高年がツアーみたいなもので歩いておられるのは見かけるが、若い世代ではちょっと違うのかなと思う。おそらく市は、比較的若い世代の人たちに訴求力があるものができるかとい

うことを考えておられると思うがその辺はいかがか。比較的若手の方から御意見いただきたいが。

アニメの聖地巡礼のようなものと、若い人が関心を持ってくれることがあると思う。例えば映画、小説、漫画、アニメ等、そういったようなものの舞台になっていたりすると、関心を持って事業に繋げていける。大津は小説で有名になった。

委員：滋賀県でビワテクを実施されているということだが、先日、国スポの水泳の競技会場に行ったが、確かビワテクの案内はなかったように思う。スポーツに関心がある方なら興味を持ってもらえると思うので、そういう会場で啓発活動をしたり、若者が集まる先週のイナズマロックフェスでもチラシを置いたりしたらよかったのではないかと思った。人が集まる場所に置いておくだけでも、一定数の方に見ていただけると思うので、もし機会があれば今後の国スポ会場にも置いていただきたい。

会長：色々な機会を捉えて啓発いただくことが必要である。

委員：自分の息子と娘に意見を聞くと、体を動かすとなると音楽が一番体を動かしやすいという話をしていた。先日草津市でイナズマロックがあったが、もっと小規模なものでも音楽ライブ等をあちらこちらで催すと、若い人が集まるなどして、自然に体が動かせるのではないか。

委員：1歳と3歳と6歳の3人の娘がいるが、妻とこどもと一緒に出かけるとなると、音楽の他には、おやつやフルーツというような食の部分になる。例えば草津市のメロンを目的に、家を出るという場合もあると思う。文化となると、例えば立木神社などのお祭りで、近くに駄菓子屋やお饅頭屋があれば、地元の美味しいお菓子を買いたい方が出てくるのでは。お祭りがきっかけで、地元のおやつを買って食べようとか、地元のフルーツを楽しんで帰ろうというのがきっかけで、家を出ることが多いかなと感じた。

会長：この議題に入る前にも出てきたが、まちなかに魅力があると思う割合以上がそれほど多くないというところに繋がってくると思う。一定年齢以上の方、おそらくずっとこの地域に住んでおられる方は、当然そのまちの魅力はご存知だし、草津に愛着があって、草津が好きだと思うが、若い年齢層の方々は、草津で生まれ育ってない人たちが結構多い。自分の故郷は別にあって、たまたまこっちに来て暮らしているとなると、草津の魅力は分からない。そういう層に、もう少し草津の魅力を伝えていく努力をしなければいけないのではないかと思う。移ってこられた方は、おそらく便利だからこっちに来ただけで、草津市に魅力を感じて移り住んできた人が、どれだけの割合いるか。京都のような歴史的なまちや、芦屋のような高級住宅地は、みんな住みたいと思って来ているが、草津の場合は、利便性が理由で住んでいると思う。こっちに家を買えたからこっちに来ただけで、草津には目が向いていないような人たちもいる。そういう人たちが、地元の行事に参加していただけないというところに繋がってきているのではないか。しかし、そのこどもは草津生まれ、こどもの故郷は草津市である。移り住んできた大人は、他所に愛着があるかもしれ

ないが、こどもは草津で生まれ育って、草津に愛着を持っている。ぜひともそういう、こどもに対して、地元の文化等に愛着を持っていただけるような働きかけをしていただきたい。

委員：毎月1回労働組合が集まる幹事会を実施しており、ビワテクの普及活動など、パンフレット等をいただけたら、活動の場で紹介することも可能なので、またよろしく願いしたい。

「文化」と「健康」については、ウォーキングラリーが浮かんた。草津市には大きなイオンモールがあり、うちの祖父はそこに毎日ウォーキングに行っている。雨の日も、暑い日も、寒い日も、関係なく歩くことができ、疲れたら椅子に座ることができる点が便利なので、毎日何時間か歩いて帰ってきている。このような形でイオンモールを巻き込んで、例えば買い物に行って歩けばポイントがついて、そのポイントがたまれば何か景品がもらえるようなことができれば、若い方にも参加していただけるのではないかな。

また、「文化」に関して、私は草津に住んでもう長いけど、マンションに住んでおり、先ほど話にあったようなお祭り等はマンションでは全く実施されていない。今ではこども会も解散しており、地元の文化に触れることが少ない状況になっている。新興住宅街でも昔のような隣近所との濃密な関係がほとんどないと聞いており、草津のゆかりの文化をどのように若い方に紹介していくかというのは、長いことを考えて議論していかないといけないなと思っている。会社の近くでも毎年夏祭りがあり、いつも神輿の担ぎ手が少ないので、会社の方から応援ということで、何人か担ぎに行ったりしているが、そのような場面で草津市は行事に参加する人が不足しているということ、切実に感じている。市内町内や大きな企業も含め、何とか地元を盛り上げていけるような取組ができればと思うので、検討いただきたい。

会長：町内会に入らない人たちが増えてくるというのが、先ほど申し上げたような、自分の目は草津を見てないということだと思う。しかし、こどもはここで生まれて、ここで過ごして、ここで育っているわけで、自分が生まれ育った町の文化に愛着を持っていただきたいと思うので、何かそのあたりに対する取組ができればいいと思う。ちなみに、草津市の市民憲章の一番目は「古い歴史に溶け合った新しい文化を作り、住みよいまちを築くために、温かい心を持ち合ってともに明日への歩みを進めましょう」である。

色々意見をいただいたが、先もあるんで、この話題については協議を終了させていただく。

(2)第2期草津市国民健康保険保健事業推進計画

1)令和6年度取組の実績について(報告)

事務局(保険年金課)：資料2-1および資料2-2、資料2-3に基づき報告

会長：健診等は目標値が60%と非常に高く、目標値には到底及ばないような数値になっているが、特定健診の受診率は少し増えている現状。御意見等いかがか。

委員：(意見、質問なし)

2)特定健康診査の受診率向上の取組について(協議)

事務局(保険年金課):資料5に基づき説明

会 長:特定健診の受診率向上に向けて、様々な工夫をし、できることは実施されていると思う。健康診断が実施されていることを知らない人は多分いないと思うので、知っているけれど受けないという方に対して、どうしたら受診いただけるかということになる。特に若年層に対して、何か御意見はあるか。

私どもは医療に携わっているが、健康に関心が出るのはほとんど定年後。65歳になってから健康に対して一生懸命になる。それまで何もしていなくて既に病気が進んでいるという状況になっている方が結構多い。もちろん色々な事情があるので、その方を責めることはできないが、やはり関心がないので受けに来られないということが一番大きな問題。正直、一定年齢以上になるまで、病気になる人は確率的には絶対少ない。30代でがんになる人は滅多にいないが、50代、60代になるとがんになることが増えてくる。だから40代ぐらいの人の関心が薄いのは、確かにそうなのかもしれないが、そういう層の人たちにもやはり特定健診を受けてもらいたい。実際、近年生活習慣病は低年齢化している。20年、30年前だったらそのような方はほとんどいなかったが、今は、30代、40代でひどい糖尿病の方が結構おられる。後々の健康に影響してしまうので、そういう方と特定健診であぶり出していくことがやはり大切。

ちなみに、特定健診のパンフレットに人間ドックの補助が出ると書いてあるが、人間ドックを受ける方はどれぐらいの数か。

事務局:草津市では、毎年800人から900人ほどの申し込みをいただいている。もっと詳しく血液検査をしたい方や、腫瘍マーカー、脳ドックなどの検査をしたい方が申し込まれる。

会 長:毎年受ける方はいるのか。

事務局:毎年人間ドックを受ける方もいる。

会 長:半額が補助されるということだが、平均何円くらい自己負担として人間ドックの受診料を支払われているのか。

事務局:病院によってかなり差があるが、少ない項目のコースであれば4万円弱。うち半分の助成になるので、2万円弱の助成、2万円ほどの負担をいただいている。

会 長:特定健診は生活習慣病をターゲットにした健診で、がん検診等とは別になり、詳細な他の検査は少し不足するので、人間ドック受けたいという方がおられるのだと思うが、意外と人間ドックを受診される方が多いという印象。

イオンモール草津でされている特定健診は、何日間で何人くらいが受診されているのか。

事務局：今年度はイオンモール草津で2日程、1回の定員を100人として、200人の定員で実施している。現時点の申し込みでは、10月実施分は定員が埋まっており、2日程目の方でも6割ほどの申し込みを既にいただいている。

会 長：イオンモールでの健診日程を増やしたらもっと特定健診の受診者が増えるのではないか。

事務局：10月20日と12月9日の2日程でイオンモール草津にて特定健診を実施しており、他の日程は定員60人であるのに対し、イオンモール草津は定員100人としている。当初、申し込みが少なかったが、8月にはがきで勧奨したところ申し込みが増え、大変好評いただいている。現在、来年度の会場等を検討しているが、集団けん診をどこまで増やすかというところもある。個別の医療機関で受けていただくことも大切。集団けん診の回数を増やすことで、受診率がどれほど上がるのかを見ながら検討していきたい。イオンモール草津での特定健診は継続したいと思っているが、状況を見ながら、来年度の回数などは検討させていただきたい。

会 長：特定健診を受けていただけるような良い方法はないか。会社等では健診の受診が義務になっているので、90%以上受けていただいているが、国民健康保険の方、自営業の方は特定健診の受診が少ない現状。自営業の方は自営業の組合のようなものがあり、その団体で健診を実施されている場合もあるので、健診の機会が全くないということではないとは思うのだが、いかがか。

委 員：受診を強制できないのは何かルールがあるのか。国民健康保険だと強制できなくて、社会保険だと保険者が健診を受診することを管理できるのか。

会 長：労働基準の問題だと思われる。雇用者は何人健診を受けたかを労働基準監督署に報告しなければならず、健診受診者が少ないと労働基準監督署から指導が入るのではないか。

委 員：薬剤師会の立場としては、かかりつけ薬剤師の普及もあり、特定健診の啓蒙は服薬指導の中で実施しているが、先生方の診察のときに啓蒙していただくと、より薬剤師の立場からも啓蒙しやすい。また、地域で特定健診の啓蒙を活発に取り組まれていると、薬局に来られた際に伝えやすく、またそうすると色々な場面で複数回特定健診という言葉聞くので、これはどういうことかという質問に繋がると思う。これは特定健診だけではなく、他の事例である健康や食の部分でも同じかと思う。最近では栄養士が薬局にいないのかという相談も増えてきているので、複数のポイントでいろいろ施策を打っていただくと、かかりつけ薬局を謳っている中でも話をしやすくなる。また、マイナンバー等含めて今後できるのであれば、ピンポイントで指標などを決められたらということではあるが、制度的には難しいところがあると思うので、周りの環境整備からできたらと思う。

会 長：診療所は関心のない方が来るわけではないので、私らの立場としては、健康診断も受けられないような若年層の人に直接働きかける場が実はない。この点は委員の皆さんの周りで何らかの

工夫をしていただきたい部分になってくると思うが、いかがか。

委員：先ほどイオンモールの予約の数はもう100名を超えたということだったが、ちなみに、すでに終了している8月24日、9月6日、9月16日の集団けん診は何名ぐらい受診されたのか。

事務局：1日程目と2日程目は定員60名が埋まり、3日程目の9月16日は10名ほど空きがあったため、3日程合計で170名ほどの方にお申し込みをいただいた。

委員：定員に対してたくさんの予約が入っているので、皆さん特定健診に行かないといけないという思いはあると思う。例えばイオンモールやエيسクエアなど、買い物ができるところで会場を借りることができれば、買い物のついでに特定健診を受けていただけるのではないか。

会長：確かに、YMITアリーナやまちづくりセンターに特定健診に行っても、健診を受けに行くだけでおまけがない。ショッピングセンターであれば、ついでに買い物や食事ができるので、一つの目的になると思う。集団けん診に申し込まれる方の年齢層や性別はどうか。

事務局：全体的には、40代、50代、60代の方が多く、特に今年度は電子申請を進めているため、40代、50代の受診が伸びている。男女比については、やや女性が多い。すごく女性が多いというわけではなく、男性にも申し込みいただいている。

会長：集団けん診は申し込みが必要だが、個別健診は、うちの医療機関では、申し込みなしでも大丈夫なので、そういうところを強調していただくのもいいかと思う。時間帯に関しても、朝食を抜くのが理想的な特定健診の条件だが、そうでなければ特定健診を受診できないというわけではない。診療所は夕方から夜にかけての診療もしているので、そこに来ていただいてもいい。昼食を抜いて夕方に来ていただければ、ある程度評価できるような数値が出る。食事を摂っていて問題になるような数値は、特定健診の中では血糖値と中性脂肪ぐらいであとはそんなに大きく影響しない。夕方も健診可能というところを強調していただいてもいいと思う。そうすると自営業の方でも、受診する時間を作っていただけるのでは。

あとは健康診断を受けることによる効果があまり強調されてない、見えてこないというところが、健康診断を受けられない理由の一つに挙がってくるのではないか。がん検診においても、効果があまり受け入れられてないというところもあるのかもしれない。がん検診の効果が本当に証明されているのかと言われると厳しいところもあるが、ほとんどがそれほど負担になるようなけん診ではないので、けん診を受けて、健康に関心を向けるということも大事だと思う。

あとは特定健診の事後のこと。先ほど申し上げたように、会社に勤めている人は95%以上健診を受けているが、健診を受けても大きな病気をほったらかしの人もたくさんいる。特定健診も、健診を受けた効果があって初めて特定健診を受けようというふうなところに結びついてくると思う。効果が見えてこない、健診受診につながらない。特定健診を受けて、特定保健指導をすることによって、糖尿病などの病気の進展を防ぐことができるようになった、10年でこういう病気の

人が減ったなどのデータを出すことができれば、特定健診受診の推進力になるのではないか。大企業だと、健診効果のデータを出しているところもあるのではないか。そういうところを参考にさせていただくと、特定健診受診の推進力にはなるかと思う。

委員：会長の話を聞いて、夕方や夜でも特定健診が受けられるのは知らなかったので、そういう周知の機会があればいいと思った。また、若年層の方は忙しくて特定健診を受けないという方も多いと思うので、集団けん診の会場ではブースを増やして、回転率を上げて受診の時間が短く、1時間で受けられるとか、そのような文言があるといいと思う。何となく健診というと、半日や1日かかりのイメージがあるが、1時間ぐらいで受けることができれば、ぱっと行こうと思う人が増えるのではないか。

会長：実際、集団けん診は会場に入って健診が終わって出てくるまでどのぐらい時間がかかるのか。時間予約にしているのか。

事務局：受診者から時間指定はできないが、申し込みいただいた後、健診業者で調整し、時間の記載したものを送付する形をとっている。特定健診のみの受診であれば健診時間は45分ほど、待ち時間を含めて受付から1時間程度で終わるということを勧奨のはがきに記載している。「無料で、1時間で、年1回で終わる」という点に加えて、ご意見いただいた、「効果がある」「命に関わる病気の早期発見に繋がる」というところをアピールしていきたい。

委員：草津市のラインを改めて見ると、各種けん診という項目があって、そこを押すと、イオンやYMITアリーナの申し込みまで進むことができるということを、今初めて知ったので、もう少しPRしていただけたらいいと思った。

会長：実は結構工夫してやっていただいている。今日協議して、色々聞いていただいたように、様々な工夫、取組は何年もかけてやっていただいているが、なかなか伝わっていないところが一番の問題。行政は伝えるのが下手ということが課題として一番あるのだろう。「広報に全部書いている」が本当だろうが、端々まで広報を見る人はそんなにいない。なので、伝わらない。じゃあ何かから情報を知るのかとなると、自然に耳に入ってくるような情報はないので、自分で取りに行っ初めてわかるという情報になる。そのところをどうにか周知できるような方法を、考えていただくのも一つ。ある程度取組は今までされているので、あとは伝え方をどうするのかというところになる。

委員：特定健診の後の結果を、アプリとかでその後の自分の体重等の生活習慣の改善に繋がられるようなものがあれば、また継続して特定健診を受けてもらえるのではないか。また集団けん診について、高齢者も継続して受診していただきたいということで、学区ごとで、自宅から近く歩いて行けるようなところで集団けん診をしていただけると、高齢の方でも受診できるのではないかと思った。

事務局：特定健診の結果については、個別の医療機関でも、集団けん診でも、紙でその年の結果が返ってくる。経年で載っているとわかりやすいという御意見もあるが、マイナポータルで特定健診の結果が見られるようになっているということを周知している。集団けん診について、学区ごとに受診率を算出し、低かったところではまちづくりセンターを集団けん診の会場とするなど、学区ごとに検討しながら毎年会場を探している。そちらの方も引き続き学区別に見ながら進めていきたい。

会 長：学区別で受診率が少なかったところというのは、その学区内での診療所の数が少ないとかもあるのか。

事務局：関係があるかと思われる。個別の医療機関が少なく特定健診の受診が少ない、また集団けん診の会場も場所が遠い、バスが通っていないところや駅から遠いということもあるかと思うので、そういったところも、総合的に考えながら会場を検討していきたい。

5. 閉会

【松尾健康福祉部副部長 あいさつ】

以 上